様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月６日現在

機関番号：３４３１６
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2008～2010
課題番号：20320018
研究課題名（和文）　南方熊楠資料の基礎研究と学際的展開

研究課題名（英文）　Primary Research and interdisciplinary analysis on Minakata Kumagusu archives

研究代表者
松居　竜五（MATSUI RYUGO）
龍谷大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：40238952

研究成果の概要（和文）：本研究では南方熊楠の未公刊資料のうち、書簡、日記、ノート類など自筆原稿に関して、翻刻およびデータ編集をおこなった。またその結果に基づいて論文、展観、シンポジウムなどのかたちで南方思想の学際的かつ国際的な研究を進めた。このことにより、南方の比較説話学、仏教学、環境思想などに関して、従来よりも幅広く精緻な像を示し、今後の研究の方向性を切り開くことができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：In this research, we have reprinted and compiled the manuscripts of Minakata Kumagusu in his letters, diaries, notes, etc.　Based on these achievements, we developed interdisciplinary and international study on his philosophy by the papers, exhibitions, and symposiums.　We have succeeded in representing the comparative folklore studies, Buddhist studies, and environmental theory of Minakata in much wider and detailed perspective than before.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2009 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2010 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
年度			
年度			
総　計	16,000,000	4,800,000	20,800,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・思想史
キーワード：南方熊楠、環境思想、比較説話学、仏教学、民俗学、英国、比較文化史、生態学

１．研究開始当初の背景

南方熊楠（1867-1941）は東アジアの教養と、19 歳から 33 歳までの 14 年に及ぶ米国・英国での学問的研鑽に基づいて、東西文明圏を横断する独自の学問体系を創出した人物として注目される。しかし、大学などの研究機関に所属せず、制度的な枠組みの中での後継者がなかった南方の資料は、長年未調査のままで和歌山県田辺市の旧邸に残されてきた。こうした南方熊楠の資料について、本研究のメンバーを中心とするグループは、1992 年頃から整理と研究を進めてきた。1999 年より継続して科学研究費での調査をおこない、未公刊資料の翻刻と編集を進めてきた。その結果、『南方熊楠邸蔵書目録』(2004)『南方熊楠邸資料目録』(2005)を作成し、2006 年には旧邸隣地に保管と研究のための施設として田辺市により南方熊楠顕彰館が建設された。2000 年代の後半からは、英語、中国語など南方とゆかりの深い言語での国際的な研究発表もおこなっている。

２．研究の目的

前記のように、南方熊楠の学問的成果は日本だけではなく世界的に注目される部分を有している。しかし、残された蔵書は多言語にわたり、また主に日本語と英語で書かれた草稿も難読である。このため、草稿の翻刻と実証的な学問分析には困難な作業がともなう。そうした中で、本研究は従来の作業を引き継ぎ、重要書簡や日記の翻刻をおこなうこと、および基礎資料に基づいた実証的な方法で、南方熊楠の思想史的な位置づけの学際的・国際的研究を進めることを主な目的としている。

翻刻対象としてまず重視したのは 2004 年に京都高山寺で発見された 43 通の土宜法龍宛の熊楠書簡である。これは 1893-4 年にロンドンの熊楠からパリの法龍に送られたものと、1900 年の熊楠の帰国後に送られたものからなり、熊楠が「南方マンダラ」と呼ばれる仏教と近代科学を融合した独自の世界観を形成していく過程をたどることのできる重要資料である。また、1902 年以降に変形菌の研究に関して熊楠に師事した小畔に送られた書簡も、熊楠の生物観を知ることができるものである。1914 年以降の日記は未刊行であるが、熊楠思想の解明のために不可欠の資料であり、今回は 1915-1927 年分を主な翻刻対象とした。

次にこうした翻刻に基づきながら、仏教学、説話学、環境思想などの方法論を用いて、南方熊楠の学問を実証的に分析することが、本研究のもう一つの中心である。一般に熊楠のイメージは誇張や伝聞で語られている部分が大きいが、資料に基づくことでそうした非学問的な熊楠像を払拭することにつとめた。さらに、国内外においてシンポジウムや研究会をおこない、これと連動したかたちで共同研究者による関連の論文執筆を促進した。特に英語圏などでの研究発表をおこなうことにより、これまで日本国内のみでおこなわれてきた南方熊楠研究の国際的な展開を図った。

３．研究の方法

研究開始当初から、RA 数名を雇用して上記資料を中心とする翻刻作業に当たった。また東京と関西で従来からおこなってきた研究会において、本科研のメンバーを中心としてこの翻刻作業のチェックをおこなった。特に次の三つの未刊行資料について重点的に作業をおこなった。

１）土宜法龍宛書簡： 奥山が中心となり、前回の科研で粗翻刻を仕上げたものについて最終的なチェックをおこない、かつ詳細な註釈を付した上で、藤原書店より刊行した。

２）小畔四郎宛書簡：南方熊楠顕彰館の資料を底本として本科研の RA が中心となって翻刻作業を進め、編集を加えた上で南方熊楠顕彰館より刊行した。

３）日記： 東京、関西、田辺でおこなっている研究会を中心として翻刻作業を進めた。その結果を RA を中心としてとりまとめ、編集して刊行のための原稿作成を進めた。その結果、平凡社東洋文庫での刊行のための準備作業をほぼ終えつつある。

特に１）に関連して、仏教学・比較文化論の分析、２）に関連して環境思想・生物研究、３）に関連して思想的変遷に焦点を当てた研究を進めることが可能となったと考えている。一方、研究面では以下のような学際的・国際的展開を図った。

４）2008 年 6～7 月に龍谷大学において展観「南方熊楠と仏教」を開催し、関連のシンポジウムをおこなった。このシンポジウムでは１）の資料などに基づきつつ、土宜法龍と南方熊楠の仏教論のやりとりについて多角的な分析を加えた。また、当時の龍谷大学教授で仏教・道教研究者の妻木直良が熊楠とおこなった仏教論のやりとりについて初めて本格的に発掘した。

５）2010 年 2 月には英国ロンドン大学東洋アフリカ研究所において、シンポジウム Minakata Kumagusu and London を開催した。このシンポジウムは南方熊楠に関する初めての国際研究会であり、松居（発表③）、奥山（発表④）、小峯（発表⑤）の他、本科研の RA である田村義也（発表⑥）が発表した。この結果は、科研報告書（図書②）に収録されている。またこの研究会では英国、フランスの研究者各一名の発表（図書②に収録）と、計三名の英国人研究者のコメントも行われている。この研究会によって、熊楠がロンドンでおこなった学問活動を英語圏で分析するための今後の基盤を築けたと考えている。

６）研究期間の３年間、毎年八月第一週に２～３日間の研究合宿を南方熊楠顕彰館においておこなった。この成果については、さまざまなかたちで論文などに反映されている。

７）橋爪は 2009 年 9 月に韓国プサン（発表⑧）、松居は 2009 年 12 月に英国ロンドン国際交流基金（発表③）、2011 年 2 月に米国ハーバード大学（発表①）において、それぞれ南方熊楠に関する学会発表を行っている。こうした海外での発表を通じて、南方熊楠が世界的な近代思想史の中で持っている意味を明らかにしつつある。

４．研究成果

上記１）の成果として、土宜法龍宛書簡に関して、奥山直司が監修者として詳細な註釈を付けた翻刻を藤原書店より刊行した（図書⑤）。また、上記２）の成果として、RA を中心としたグループにより小畔四郎宛の南方熊楠書簡二冊を南方熊楠顕彰館より刊行した（図書③④）。上記３）の日記の翻刻・編集に関しては、平凡社東洋文庫での刊行に向けた作業を現在進めている。

展観「南方熊楠と仏教」に関して、2008 年にカタログを刊行（図書⑥）し、2011 年にシンポジウムの成果を含む論集（図書①）を刊行した。またロンドンでの国際シンポジウムの成果を本研究の報告書として英文で刊行した（図書②）。この報告書には上記５）に記したように、本研究の共同研究者を中心として、関連の論文も多く発表されている。特に南方熊楠のロンドン時代に焦点を当てたものであるが、日英を中心とする研究者が初めて国際的な視点から分析することにより、大英帝国の最盛期における熊楠の知的活動をポストコロニアルの視角から分析するなど、従来にはなかった論点が多く提供された。シンポジウム自体に関しては、松居が雑誌論文⑨においてロンドン大学のニューズレターに英文で報告をおこなっている。

こうした成果により、資料による南方熊楠研究の基礎確立と、それに基づく学際的・国際的研究展開という両面をかなりの程度充実させることができたと考えている。特に、近代前期の仏教学、説話学における南方熊楠の思想的重要性を明らかにした点、および英国での活動に関して、国際的な観点からの分析を進めた点が、本研究の最大の成果であった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）

①橋爪博幸「南方熊楠と現世肯定 ― 新出の土宜法龍宛書簡にみられる「物」と「心」―」『文明と哲学』（日独文化研究所年報）第 3 号、138～149 頁、査読有、2011 年

②松居竜五「南方熊楠と英国の女性学者」『熊楠 works』37 号 3-7 頁、査読無、2011 年

③松居竜五「南方熊楠の海外での活動に関する資料の収集と分析」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第 13 号、査読無、2011 年（印刷中）

④橋爪博幸「大正時代における「耳塚」論争―南方熊楠、柳田国男、寺石正路、３者のやりとりを中心に―」The Journal for the Study of Humans and Culture, Institute of Humanities and Social Science, Dong-eui Univ.（Busan）107～129、査読有、2010 年

⑤Okuyama Naoji, “Correspondence between Kumagusu and Dogi Horyu: On the Newly Found Letters from Kumagusu to Dogi,” CSJR（SOAS 日本宗教研究センター）Newsletter, Autumn 2010, pp.20-23、査読無

⑥奥山直司「熊楠 vs.法龍―往復書簡研究の一面―」『熊楠 Works』35 号 18-22 頁、査読無、2010 年

⑦奥山直司「南方熊楠と大乗仏教（上）真言僧・土宜法龍との交流をめぐって」『大法輪』77-6 号 132-139 頁、査読無、2010 年

⑧奥山直司「南方熊楠と大乗仏教（下）「熊楠の生命の樹」から「南方曼陀羅」へ」大法輪 77-8 号、180-188 頁、査読無、2010 年

⑨Ryugo Matsui, “Centre Activities Report, Workshop: Minakata Kumagusu and London,” CSJR (SOAS 日本宗教研究センター) Newsletter, Autumn 2010、査読無

⑩奥山直司「梵語・チベット語学生としての能海寛" 『能海寛著作集第 6 巻 寄稿論文など』、USS 出版、342-365 頁、査読無、2009 年

⑪安田忠典「南方熊楠の那智隠栖期について -『南方熊楠・小畔四郎往復書簡(一)』を中心に」龍谷大学国際社会文化研究所紀要第 11 号、199-209 頁、査読無、2009 年

⑫OKUYAMA Naoji, "The Tibet Fever among Japanese Buddhists of the Meiji Era" Etudes thematiques,” Ecole francaise d'Extreme-orient, 22. vol. 1, pp. 202-222 、査読有、2009 年

⑬奥山直司「明治インド留学生たちが見た「比叡」と「金剛」の航海」『アジア文化研究所研究年報』43 号 65-81 頁、査読有、2009 年

⑭松居竜五「南方熊楠の自然哲学」『環境会議』秋号 56-61 頁、査読無、2009 年

⑮松居竜五「ジャクソンヴィルにおける南方熊楠」龍谷大学国際社会文化研究所 11 号 210-228 頁、査読無、2009 年

⑯奥山直司「日本近代仏教史の中の土宜法龍」『環』35 号 204-221 頁、査読無、2008 年

⑰安田忠典「南方熊楠と熊野の温泉温泉地の魅力を増すためのコンテンツ発掘に向けて」『温泉研究』NO. 5、37-40 頁、査読無、2008 年

〔学会発表〕（計 9 件）

① Ryugo Matsui, “Mandala and Forest, Minakata Kumagusu 's Buddhist perception of nature Religion and the world of lived

experience,” Ryukoku University, ORC, 2011年2月25日, Harvard University
②橋爪博幸「自然と社会の共生の再現可能性：南方熊楠と神社合祀反対運動から」、日本国際文化学会　第9回（2010年度）全国大会、2010年7月3日、東海大学札幌キャンパス
③Ryugo Matsui, “Minakata Kumagusu and the British Museum,” Minakata Kumagusu and London, SOAS, University of London, 2010年2月19日
④Okuyama Naoji, “Correspondence between Kumagusu and Dogi Horyu: On the Newly Found Letters from Kumagusu to Dogi,” Minakata Kumagusu and London, SOAS, University of London, 2010年2月19日
⑤Kazuaki Komine, “The constitution of comparative narratology by Minakata Kumagusu during his stay in London,” Minakata Kumagusu and London, SOAS, University of London, 2010年2月19日
⑥ Yoshiya Tamura, English essays of Minakata Kumagusu-centring on his contribution to Nature,” Minakata Kumagusu and London, SOAS, University of London, 2010年2月19日
⑦Ryugo Matsui, ”Movers and Shapers: Minakata Kumagusu," 2009年12月10日, Japan Foundation, London (UK)
⑧橋爪博幸「熊野の名山と南方熊楠の生態思想」2009年人文韓国国際学術大会(大会テーマ「東アジアにおける名山と知識人」)、2009年9月4日、慶尚大学校(韓国・晋州市)
⑨橋爪博幸「南方熊楠における物と事と心」、モノ学・感覚価値研究会、ワザ学研究会2009年5月24日、京都大学こころの未来研究センター

〔図書〕（計6件）
①松居竜五編『南方熊楠と仏教』、龍谷大学人間・宗教・科学オープンリサーチセンター、全74頁、2011年
②Ryugo Matsui (ed.), *Minakata Kumagusu and London*、科学研究費基盤研究Ｂ「南方熊楠資料の基礎研究と学際的展開」報告書、全58頁、2011年
③南方熊楠顕彰会学術部会編『南方熊楠・小畔四郎往復書簡（三）（南方熊楠資料叢書）南方熊楠顕彰館、全182頁、2011年
④南方熊楠顕彰会学術部会編『南方熊楠・小畔四郎往復書簡(二)〔大正七年～大正十年〕』南方熊楠顕彰館、全114頁、2010年
⑤奥山直司・雲藤等・神田英昭『高山寺蔵南方熊楠書翰 土宜法龍宛 1893-1922』、藤原書店、全370頁、2010年
⑥松居竜五『南方熊楠と仏教』展観カタログ、龍谷大学人間・宗教・科学オープンリサーチセンター、全16頁、2008年

６．研究組織
(1)研究代表者
松居　竜五（MATSUI RYUGO）
龍谷大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：40238952

(2)研究分担者
奥山 直司（OKUYAMA NAOJI）
高野山大学・文学部・教授
研究者番号：50177193
橋爪 博幸（HASHIZUME HIROYUKI）
桐生大学・短期大学部・講師
研究者番号：40412978
安田 忠典（YASUDA TADANORI）
関西大学・人間健康学部・准教授
研究者番号：90388413

(3)連携研究者
小峯 和明（KOMINE KAZUAKI）
立教大学・文学部・教授
研究者番号：70127827
千本英史（CHIMOTO HIDESHI）
奈良女子大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号：50188489
横山茂雄（YOKOYAMA SHIGEO）
奈良女子大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号：10144726